

南牧村教育委員会からお知らせ 「あたらしい学校について」

南牧村では、2つある小学校と1つの中学校の統合について長年検討してきました。今年、1月から6月まで9回にわたり南牧村小中学校建設検討委員会を実施し、村長に令和7年6月23日意見書を提出しました。この意見書は7月末に全戸配布しましたが、意見書要旨は下記のとおりです。

1. 小中一貫教育制度の導入について

「義務教育学校」という学校種類がのぞましい（2つの小学校と中学校の3校統合した学校）

2. 建設地の選定について

前回の小中学校建設検討委員会の中間報告で出された南小学校敷地、中学校周辺の2つの建設候補地について、教育環境として甲乙つけがたいので、様々な視点や立場から総合的に検討し、判断された建設地とされたい。

村長はこれをうけて、7月25日「総合教育会議」という会議を開催し、教育委員と意見を交わしました。そして、9月4日、9月村議会の招集挨拶で、このことについて村長自身の考えを示しました。

1. 小中一貫教育制度の導入について

「義務教育学校」という学校種類がのぞましい
（2つの小学校と中学の3校統合した学校）

2. 建設場所の選定について

南小学校の敷地、又はその周辺と考えている

南牧北小学校、南牧南小学校、南牧中学校を1つに統合し、9年間の連続した学びである義務教育学校を南小敷地、あるいはその周辺につくることを考えているということを示しました。

この村長の考えをふまえ、南牧村教育委員会では2つのことをお知らせします。

- ①まず「義務教育学校」とはどんな学校だろうという疑問を持たれる方も多くいらっしゃると思います。南牧村が目指す義務教育学校（案）がどんな学校なのか、保護者の皆さん向けに説明会を実施いたします。令和7年1月に開催を予定していますので、詳細は別途広報します。
- ②あたらしい学校づくりは、子どもたちはもちろん、多くの住民の皆さんと一緒にやりたいと考えています。具体的にいつ、どのように参加していただくか、現在検討しています。決まり次第お知らせしていきますので、ぜひご協力をお願いします。



南牧村小中学校建設検討委員会
会議資料、議事録



南牧村総合教育会議
議事録

令和7年6月23日南牧村小中学校建設検討委員会より、南牧村の今後の学校の形態と建設候補地について意見書が提出されました。我々は今後、地域の皆さんとともに、当村の教育ビジョンである

地域みんなで育てる・大人も学ぶ「共学び・共育ちの村」

↓
このビジョンにふさわしい拠点となるような学校をつくりあげていきたいと考えます。

そこで、令和7年7月に群馬県南牧村にある義務教育学校「なんもく学園」と、秋田県五城目町の五城目小学校、五城目第一中学校、廃校を利用したBABAME BASEを先進地視察をしてまいりました。その視察研修について報告いたします。

なんもく学園

群馬県なんもく学園は、令和6年4月に開校したばかりの新しい義務教育学校です。「村の子は村で育てる」という強い信念のもと設置された義務教育学校です。そして、全校生徒19人の極小規模校です。児童生徒が少ないことをハンデとせず、小規模の強みを活かした学校であり、多様な学びを実現するコンパクトな教育空間を実現されています。学年ごとの教室という概念はなく、ホームベースとよばれる空間で朝の会や帰りの会を行い、インフォメーションボードで自分の授業時間を確認し、子ども達は教科教室に移動し授業を受けます。考え抜かれた機能的な教育空間で、子ども達はそれぞれの学習に取り組んでいました。



五城目小学校

今回、視察先に選定した五城目町は、急速な少子高齢化の中で町の小学校を1つにするだけでなく、住民との共創による学校改築に成功されています。今後期待される、あたらしい学校建築において、当村でもそれはぜひ実施していきたいと考えています。また、「みんなの学校」という名称で学校授業を社会教育講座、またその逆もされています。まさに当村の教育ビジョン「共学び・共育ちの村」というビジョンが目指すものをすでに展開されています。視察では、実際に小学校6年生の社会科の授業が、学校との連携で一般向けに開放されている講座を拝見させていただきました。子ども達それぞれのグループで相談しながら、クイズ形式で授業が展開されていきます。同町が子ども1人あたりに1年間100万円をかけ、9年間の義務教育で約900万円を町のこども達に充てられていることを学びました。その他に五城目町の財政状況もあわせて学べる講座でした。階段教室の後方では、視察の私たち以外にも多くの大人が決算書を眺めながら授業を聴いていました。



五城目第一中学校

芝生に囲まれ、バリアフリー化された校舎を視察しました。エレベーターが設置されている。エントランスホールに続く組子細工の見事な引き戸があります。この引き戸は高額な費用がかかっているようですが、学校にはシンボルが必要だと思いました。

また、図書館が2階のオープンスペースにあり、行きかう生徒が自由に立ち寄り、利用できるスペースになっていました。多くの生徒が利用しやすい設計になっている部分も、当村で取り入れられるアイディアではないかと感じました。



BABAME BASE

五城目町にある旧馬場目小学校が、小学校統合の結果廃校になりました。この旧馬場目小学校をBABAME BASEというシェアオフィスに活用していました。このオフィスは格安の賃料で貸し出され、町としての収益化はまったく見込んでいません。しかし、新しい人が集まるスペースとして活用されていることが、町の活性化につながっていくと思わせる空間でした。移住者の促進、町の中での新しい事業発信の可能性を感じられるすばらしい空間です。

当村の学校統合の中で、学校づくりと並行して、廃校利用についても様々な検討していく重要な課題だと感じました。今後様々な可能性を検討する必要があると思います。

